



大阪高等学校・関西大倉高校・須磨学園高等学校 オタマボヤ合同研究チーム

大阪府大阪市東淀川区相川2丁目18-51

大阪湾・播磨灘におけるワカレオタマボヤの分布と、硫化物濃度の影響についての研究活動



Action

ワカレオタマボヤという動物プランクトンを知っていますか？ワカレオタマボヤは構造が単純であるがゆえに発生学の研究で用いられることが多いのですが、僕たちはこのワカレオタマボヤが海の保全活動に使えるのではないかと考え、ワカレオタマボヤの研究をしています。

研究内容の1つは硫化物に対して回避行動をとるのかというもので、これがわかるとワカレオタマボヤが赤潮や、硫化物の影響を受けるのかがわかります。もう一つは環境DNAを用いた個体数調査です。現在ワカレオタマボヤは世界中どこにでもいるといわれていますが、採水しても見られない場所があります。この研究を通してその場所にワカレオタマボヤがいるのかどうかと、実際に硫化物濃度との関係はあるのかがわかります。

僕たちはこれらの研究を通して赤潮やそれが原因で発生する硫化水素を減らし、海の環境を改善しようとしています。